

学童クラブ支援員が語る

コロナ禍を乗り越えて

学童クラブは約3カ月半、休む間もなく朝から子どもたちを受け入れ続けました。新型コロナウイルスに向き合いどう乗り越えたか、その経験から何を学んだかを学童クラブ支援員が振り返りながら語ります。

学校の休校や学童の1日開所を知ったとき、どう思いましたか

伊藤 保護者の電話で休校を知り、慌ててテレビをつけて「この先どうなるのだろう」と不安が募りました。

大河原 思いがけない知らせに驚きました。子どもの命を守るこの責任と、誰もが未経験で未確認の新型コロナウイルスと戦うことに、どうすればいいのかとまどいました。

伊藤 保護者へはどう対処していくとはっきり伝えられないもどかしさ、併せて、皆さんの切実な現実を思うと何とかなくはないという思いも強くなっていました。

学童を利用する子どもの保護者の理解や協力などはどうでしたか

伊藤 関係機関とのミーティング

で、できるだけ学童クラブの利用自粛をお願いする方針を取り、保護者は状況を理解し協力してくれました。業種などは問わず、仕事や家庭の事情で預けなければいけない子どもに限って受け入れ、体温の測定と体調の変化など健康観察表への記入をお願いしました。

大河原 第2も同様です。受け入れ人数が通常の4分の1になり、密を防げる環境で保育に当たることができました。保護者からの「大変な中ありがとう」「預かってくれるので仕事に専念できる」といった感謝の言葉が支えになっていました。

1日の過ごし方や感染防止対策の工夫、遊びの変化を教えてください

伊藤 マスク着用などの一般的な対策に加えて、子どもは検温してから

入室させました。朝ご飯を食べたかなど体調管理は普段よりも気にし、外の人を室内に入れない方針を取って保護者の迎えは入口で待っていてもらうなどに切り替えました。

大河原 お昼やおやつは1人1人の間隔を空けて、一定の方向を向いて黙って食べました。驚いたのはそうすることが感染を防げる大切なことと、子どもたちは日常生活を通して理解していたのです。普段と真逆のことをしなくてはいけなかったが、たくさんある中でも、何度と言って聞かせるということにはなかったです。

伊藤 地域の人からも消毒液などを寄付してもらったのは助かりました。品不足で購入が困難だったので、いただきものを室内にたくさん設置し、間に合わせることもできました。

大河原 消毒液は入口や目に留まる場所3カ所に設置して、消毒の習慣付けを呼び掛けました。

伊藤 朝は学校からの宿題や学童で用意したドリルなど勉強の時間になりました。ほとんど外に出られず、室内で過ごすことが多かったです。

大河原 朝と午後に勉強時間を設け、遊びの時間も充実させました。

伊藤先生から「新聞紙のテント」の作り方を教えてもらった好評で、お昼ご飯をテントの中で食べるために、時間に間に合うように一生懸命作るんです。

伊藤 1人一つ手軽に作れて、自宅

徹底した体調管理 勉強も遊びも充実



沼田東第2学童クラブ支援員
大河原明美さん（上原町）



沼田東学童クラブ支援員
伊藤亜希子さん（坊新田町）